

info-pack

株主の皆さまへ

第62期事業報告書
(2022年4月1日～2023年3月31日)



株主の皆さまへ

President's Message



代表取締役社長

荻井 義彦

株主の皆さまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第62期事業報告書（2022年4月1日から2023年3月31日まで）をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

第62期の連結業績としましては、連結売上高は550億28百万円（前年同期比14.5%増）、連結営業利益は20億11百万円（前年同期は44百万円）、連結経常利益は23億88百万円（前年同期比527.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は15億42百万円（前年同期は87百万円）となりました。

当連結会計年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染に対する行動規制を緩和するという政府方針のもと、正常化へ向かい始めました。しかしながら、地政学的リスクの高まりに加えてエネルギー価格や原材料価格の高止まり、為替や金利の振れ幅増大など、世界規模で不確実な要素が幾つも存在し、景気の先行きは不透明な状況が続きました。

当社グループが属する業界においては、2022年4月にプラスチック資源循環促進法が施行され、脱プラスチックの流れはますます加速することとなり、消費行動についてもインターネット通販市場の拡大や、催事・イベント関連資材の需要が回復するなど、引き続き大きく変化しています。

このような状況のもとで、当社グループは、「“パッケージ×サービス”でお客様に元気を届けるトータルパートナーを目指す」と定めた長期ビジョンの実現に向けて、中期経営計画に沿った活動を継続いたしました。

営業販売部門及び店舗販売部門では、既製品の主力商品や環境配慮型商品の拡販に努め、特注品の受注活動に注力いたしました。また、店舗外商活動にも力を入れ販路を拡大させました。加えて、経済活動の回復に伴い全国的に催事・イベント活動が復活してきたことを受けて関連する資材の需要が拡大したこともあり、売上は増加いたしました。

通信販売部門では、「シモジマオンラインショップ」において、会員数は順調に伸び、注文単価も上昇しました。飲食店向けのテイクアウト需要の伸びに加え、小売店向けの資材が回復、更にメーカー直送に特化した「シモジマモール」の出品社数や掲載商品点数が増えたこともあり、売上は増加いたしました。

これら各ルートの販売活動が活性化したことで、売上高は設立以来初めて500億円を突破し、過去最高額を計上いたしました。

利益面では、年間を通じて大幅に売上が伸びたことで、売上総利益が増加いたしましたほか、物流費をはじめとする販売費及び一般管理費を抑制する成果が表れたことで、各利益も前年同期比で増加いたしました。

今後も当社の活動へのご理解とご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

社是

・誠意・熱意・創意

経営理念

- 一、包装用品とこれに関連する事業を通じ快適な社会づくりに貢献する
- 一、常に顧客のニーズに応え創意工夫による市場拡大に努める
- 一、たえず経営の合理化と積極販売に努力し企業の発展を図る
- 一、社員の楽しく健康的な生活を確保する

長期ビジョン

「“パッケージ×サービス”でお客様に元気を届けるトータルパートナーを目指す」

長期方針

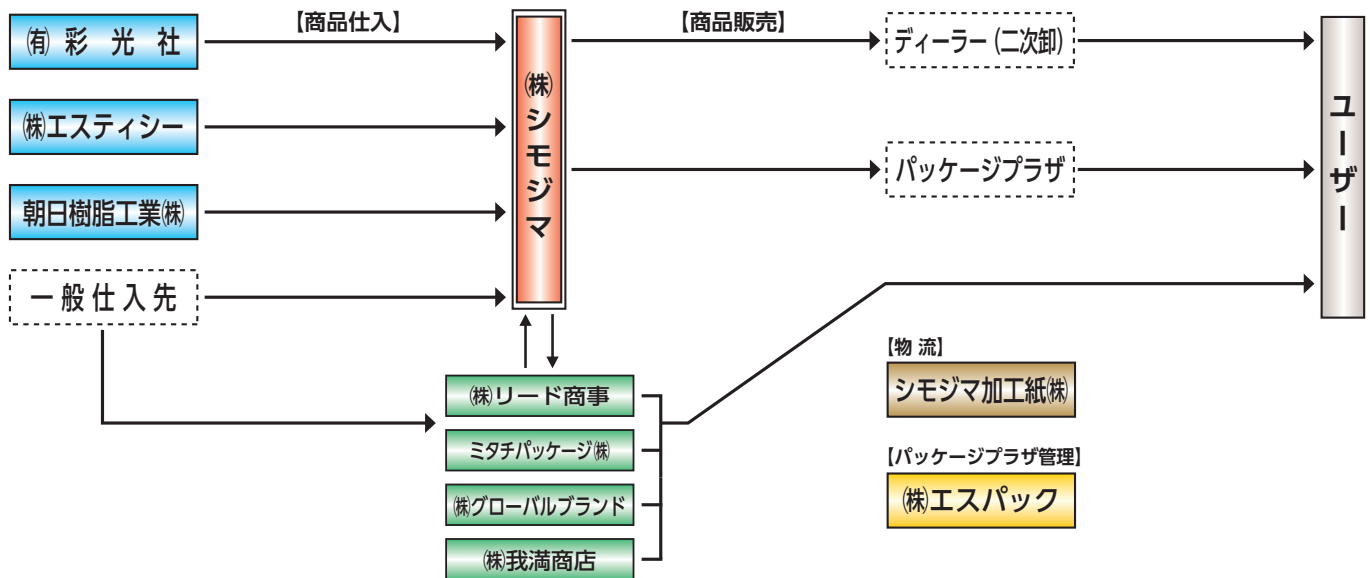
1. 事業の拡大
2. 経営基盤の強化
3. 経営体制の強化

事業報告書 郵送廃止のお知らせ

「事業報告書」は、紙資源節約・環境保護のため紙媒体での郵送を取り止め、Webサイトを通じ電子媒体で提供することといたしました。第63期中間事業報告書より当社ホームページ（<https://www.shimozima.co.jp/ir/stock/zygyohoukoku.html>）にてご高覧くださいますようお願い申し上げます。

事業の系統図

Business Flow

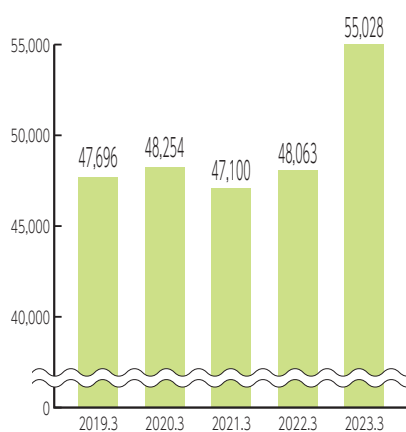


損益の状況

Profit and Loss

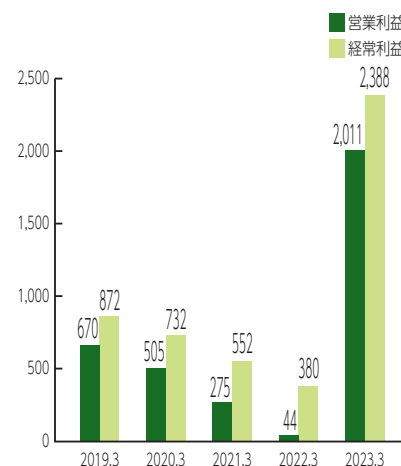
● 連結売上高

(単位: 百万円)



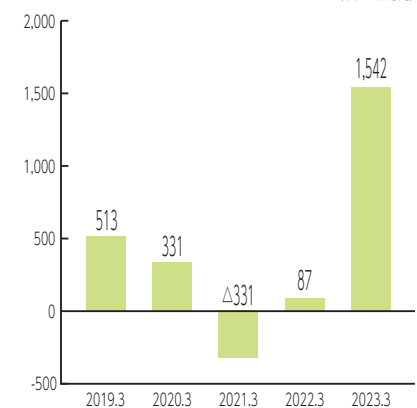
● 連結営業利益・連結経常利益

(単位: 百万円)



● 親会社株主に帰属する当期純利益または親会社株主に帰属する当期純損失 (△)

(単位: 百万円)



記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

事業セグメントの概況

Business Segments

■ [紙製品事業]

連結売上高 99億98百万円
(前期比10.7%増)

<主要な商品>
紙袋、包装紙、紙器



■ [化成品・包装資材事業]

連結売上高 318億36百万円
(前期比18.1%増)

<主要な商品>
ポリ袋、食品包材、その他包装資材等



■ [店舗用品事業]

連結売上高 131億93百万円
(前期比9.2%増)

<主要な商品>
文具事務用品、POP用品、店飾雑貨等



1. レトロ柄グッズの展開

昭和レトロブームで脚光を浴びた「ストップペイル」柄をはじめとした、懐かしの当社オリジナル柄が様々なグッズに形を変えてリリースされました。2020年に復刻版ストップペイルとして手提げ紙袋・平袋・包装紙を再発売した後、現在では雑貨・ファブリック・カプセルトイ等、様々に形を変えたレトロ柄グッズが販売されております。メディアでも多数ご紹介いただき、話題となりました。発売当時をご存知の方からZ世代の若者やお子様まで、幅広い世代から反響があり、改めて当社を知っていただくことに繋がった商品です。

今後も歴史を重ね、愛され続ける商品を生み出すべく取り組んでまいります。



2. 「スーパーマーケット・トレードショー2023」に出展

“サステナブル”というキーワードが広く認識されるようになった現在、当社も包装資材を軸としたサステナブルな社会の実現に向けて活動を推進しています。包材の使用が多い食品業界へのアプローチとして「第57回スーパーマーケット・トレードショー2023」（幕張メッセ、2月15日～17日）に出展いたしました。

環境配慮型商品の展示に加え、環境配慮を実現する“仕組み”の提案に注力いたしました。そのうちのひとつが、回収ダンボールから紙製品を生み出すクローズド・リサイクルです。当社での実用例をモデル化し、より直接的にリサイクル活動ができる仕組みとしてご提案することをご好評いただきました。

今後も時代の流れに対応し、商品製作に限られない、価値を生み出す活動に努めてまいります。



3. 一般社団法人more treesと連携した森林保全活動支援を開始

当社は一般社団法人more trees（モア・トゥリーズ）の活動に賛同し、利益の一部を寄付することで森林保全活動を支援いたします。

一般社団法人more treesは「都市と森をつなぐ」をキーワードに森林保全活動を行っている団体です。シモジマグループ店舗で購入いただいた持ち帰り袋の利益を一部寄付し、森林保全活動に活用しております。店内でもポスター掲示を行うことで、持ち帰り袋有料化による売上使途の開示に取り組んでいます。

本取り組みに賛同いただけるお取引先企業様も、当社を介してmore trees様へ寄付いただくことが可能です。お取引先企業様を森林保全パートナーとして活動の輪を広げていくことで、SDGsを推進してまいります。



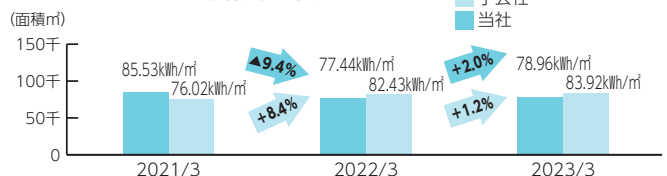
4. CO₂排出に関する状況

当社では、電力消費抑制をCSRの重要課題として電力消費抑制の取り組みを続けております。当下期におきましては、ESTビル・東部配送センター第二倉庫の照明LED化と浅草橋本店のエレベータの入替えを進めました。しかしながら、業績回復とともに生産の繁忙も増したことから、グループの消費電力量は通期で986万kWhとなり、前期比1.7%の増加となりました。

また、原単位として、当グループは、設備面積当たりの電力消費量を指標としております。業務の繁忙に伴い、当社全体では、78.96kWh/m²で2.0%増、当グループ全体では81.97kWh/m²で1.8%増となりました。

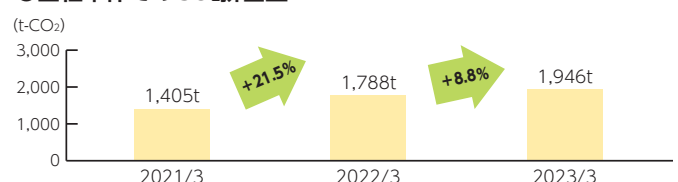
当連結会計年度におけるCO₂の排出状況としましては、Scope1はガソリンを中心に連結ベースで458t-CO₂、Scope2は電力消費により4,762t-CO₂となっております。今後も温暖化防止のため努力したいと思っております。

●グループでの電力消費原単位



*小数点第2位以下を切り捨てております。

●当社単体でのCO₂排出量



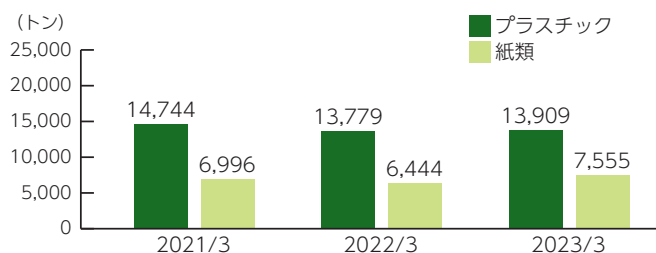
*調整後排出係数換算：環境省・経済産業省の省令に基づき算出された係数で換算しています。
*小数点第2位以下を切り捨てております。

5. 容器包装リサイクル法への対応

当社は、従前より、包装の利用による環境の負荷について認識しており、その対応の一環として、容器包装リサイクル法への対応に取り組んでいます。具体的には、特定事業者として再商品化委託料を公益財団法人日本容器包装リサイクル協会にお支払しているほか、容器包装抑制に関する報告書を関東経済産業局に提出しています。

排出抑制に関して、プラスチック製買物袋有料化制度への対応のほか、声掛け、お客様向けのポリ袋の薄肉化や紙袋のサイズの適正化等の努力を継続している等、今期も各種環境配慮型商品の開発に取り組んでおります。

容器包装リサイクル法対応による取り扱い容器包装資材の量の推移



■ 新商品のご紹介

New Products

1. アレルギーシール

特定原材料28種類について、使用の有無を可視化するためのシールです。テイクアウトや病院食、給食等でご使用いただき、アレルギーを持つ消費者の安心づくりをサポートします。



▲アレルギーシール

2. エコライナー

古紙を100%使用した環境に優しいシリーズです。宅配袋・25チャームバッグ・スムーズバッグを展開しています。



▲エコライナー

3. 再生原料ゴミ袋

再生原料を40%配合し資源の再利用を促進しています。厚みを薄くしたことで従来品と比較して減プラにも貢献できるゴミ袋です。



▲再生原料ゴミ袋

4. ヘイコーペーパーリッド

対応紙コップに取り付けて、飲み終わったら燃えるゴミとして廃棄できます。×穴タイプも紙ストローとの併用をおすすめし、脱プラの促進をご提案しています。



▲ヘイコーペーパーリッド

◆連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	前期 (2022年 3月31日現在)	当期 (2023年 3月31日現在)	科目	期別	前期 (2022年 3月31日現在)	当期 (2023年 3月31日現在)
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産		19,154	21,460	流動負債		4,876	6,075
現金及び預金		6,035	7,140	支払手形及び買掛金		2,915	3,010
受取手形		488	465	1年内返済予定の長期借入金		6	6
電子記録債権		807	1,001	リース債務		126	116
売掛金		5,804	6,523	未払法人税等		141	831
商品及び製品		5,019	5,274	契約負債		46	61
原材料及び貯蔵品		494	596	賞与引当金		333	451
その他		516	473	役員賞与引当金		23	97
貸倒引当金		△12	△15	その他		1,283	1,501
固定資産		18,662	18,562	固定負債		1,316	1,268
有形固定資産		12,578	13,539	長期借入金		122	76
建物及び構築物		3,866	3,783	リース債務		345	227
機械装置・運搬具		424	391	再評価に係る繰延税金負債		277	277
土地		7,762	7,761	退職給付に係る負債		315	352
リース資産		332	238	資産除去債務		38	132
その他		192	1,365	その他		218	201
無形固定資産		1,892	1,619	負債の部合計		6,193	7,343
のれん		538	413	(純資産の部)			
リース資産		31	18	株主資本		37,414	38,474
その他		1,322	1,186	資本金		1,405	1,405
投資その他の資産		4,191	3,403	資本剰余金		1,304	1,299
投資有価証券		558	557	利益剰余金		35,803	36,834
長期貸付金		337	294	自己株式		△1,098	△1,063
繰延税金資産		730	677	その他の包括利益累計額		△5,847	△5,858
保険積立金		2,251	1,636	その他有価証券評価差額金		310	320
その他		401	331	繰延ヘッジ損益		35	6
貸倒引当金		△87	△93	土地再評価差額金		△6,195	△6,195
資産の部合計		37,817	40,023	退職給付に係る調整累計額		1	10
				非支配株主持分		57	63
				純資産の部合計		31,623	32,679
				負債及び純資産の部合計		37,817	40,023

◆連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	前期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高		48,063	55,028
売上原価		33,091	37,485
売上総利益		14,971	17,543
販売費及び一般管理費		14,927	15,531
営業利益		44	2,011
営業外収益		415	496
営業外費用		79	118
経常利益		380	2,388
特別利益		7	171
特別損失		128	113
税金等調整前当期純利益		259	2,446
法人税、住民税及び事業税		153	847
法人税等調整額		13	51
当期純利益		92	1,548
非支配株主に帰属する当期純利益		5	5
親会社株主に帰属する当期純利益		87	1,542

◆連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	前期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー		430	2,328
投資活動による キャッシュ・フロー		△1,376	△378
財務活動による キャッシュ・フロー		△647	△686
現金及び現金同等物に係る 換算差額		0	△0
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)		△1,593	1,263
現金及び現金同等物の 期首残高		7,441	5,848
現金及び現金同等物の 期末残高		5,848	7,111

2024年3月期業績予想

Business Forecasts

(単位：百万円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
57,600	2,100	2,400	1,600

会社の概要 (2023年3月31日現在)

会社名 株式会社シモジマ
英訳名 SHIMOJIMA Co.,Ltd.
創業 1920年
設立 1962年4月26日
資本金 1,405百万円
本社 東京都台東区浅草橋五丁目29番8号
TEL 03-3864-0061 (代表)

従業員数 (連結) 787名
(単独) 610名

*従業員数は就業員数であり、臨時雇用者は含んでおりません。

株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行済株式総数 24,257千株
発行可能株式総数 67,000千株
株主数 14,749名

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領
株主確定日 3月31日

中間配当金受領
株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 (連絡先)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
(郵送先)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所 (プライム)

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告の方法により行います。但し、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

公告の掲載URL <https://www.shimojima.co.jp>

役員一覧 (2023年6月27日現在)

代表取締役社長 笠井 義彦
代表取締役専務 下島 雅幸 (上席執行役員管理本部長)
常務取締役 小野寺 仁 (上席執行役員経営企画本部長兼SCM部長)
常務取締役 川原 利治 (上席執行役員営業統括本部長)
取締役 服部 進吉 (上席執行役員営業統括本部副本部長)
取締役 大貫 学 (上席執行役員商品本部長兼品質管理部長)
社外取締役 梅野 勉 (独立役員)
社外取締役 岩崎 剛幸 (独立役員)
社外取締役 金井 千尋 (独立役員)
常勤監査役 古橋 孝夫
常勤監査役 工藤 弘行
社外監査役 佐藤 裕一 (独立役員)
社外監査役 榎本 峰夫 (独立役員)
上席執行役員 下島 謙司 (グループ管理室長)
執行役員 渡辺 昭一 (営業統括本部副本部長)
執行役員 肥田 耕一 (商品本部副本部長兼第二商品部長)
執行役員 池田 裕子 (管理本部副本部長兼経理部長)
執行役員 尾尻 新吾 (営業統括本部副本部長)
執行役員 高野 雅司 (経営企画部長兼広報室長)
執行役員 松波 幸和 (営業統括本部副本部長)
執行役員 藤谷 宗孝 (営業統括本部副本部長)
執行役員 森井 宏隆 (人事部長)

当社は、2014年6月24日より執行役員制度を導入しています。

株主優待制度のご案内

当社では、株主様への感謝のしるしとして、下記の要領で株主優待制度を設けております。当社グループの取り扱い商品 (家庭で使用される雑貨) を贈呈いたしております。株主の皆さまにおかれましては、当商品をご愛用いただき当社グループの事業に対するご理解を深めていただければ幸甚に存じます。

- 対象
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記録された、当社株式を100株以上ご所有の株主様
- 優待内容
1,000株以上ご所有の株主様に対して、一律に希望小売価格5,000円相当の当社取り扱い商品で家庭で使用される雑貨類詰め合わせを1セット贈呈。
100株以上1,000株未満ご所有の株主様に対して、一律に1,000円のクオカードを1枚贈呈。
- 発送時期
毎年6月中旬より順次発送

以上



(写真は2023年度の株主優待品です。内容は変更することがございます。)

株式会社 シモジマ

〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-29-8
TEL.03 (3864) 0061 (代表) FAX.03 (3865) 4470
URL <https://www.shimojima.co.jp>



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



本報告書は以下のような環境配慮をして印刷・製本しています。
製版工程では、使用後に廃材となるフィルムを使用しない、ダイレクト製版 [CTP (Computer to Plate)] を用いています。
印刷工程では、VOC (揮発性有機化合物) の発生が少なく生分解性や脱墨性に優れた植物油インキを使用しています。